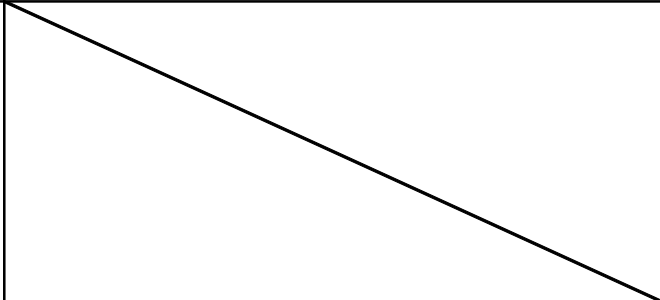


# 令和5年度学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立加賀聖城高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 ( ) は昨年度	分析（成果と課題）及び改善等
1 GIGAスクール構想による1人1台端末の効果的な活用に取り組み、生徒のより能動的な学習を推進する。	① 授業や学校環境のユニバーサルデザイン化という観点を踏まえ、生徒の基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	授業がわかりやすいと答えた生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	B 96.6% (96.1%)	授業内容や教員の指導に対して肯定的であり、ほとんどの生徒が「授業がわかりやすい」と答えている。今後もさらに生徒の興味関心を高める工夫を行うとともに、学習意欲の向上に取り組んでいく。
		授業のユニバーサルデザイン化により、生徒の学習環境が改善したと答えた教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B 87.5% (100%)	生徒が見通しを持って学びやすい学習環境構築を目的として、授業のユニバーサルデザイン化を行っている。昨年度より12.5ポイント下がってしまったが、個々の生徒に応じたきめ細かな授業が実践出来るように、生徒の授業満足度を高めるよう取り組んでいく。
		定通連携の公開授業も含め、他の授業を見学した回数の平均が A 8回以上 B 6回以上 C 4回以上 D 4回未満	後期 実施予定	
	② 1人1台端末の効果的な活用に向けて、ICT機器を活用した工夫された授業を展開し、生徒の学習効果の向上を目指す。	Chromebookを効果的に利活用した授業を行なった教員の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	A 75.0% (33.3%)	GIGA校内研修推進リーダーが中心となり、ICT支援員の協力も得ながらChromebookを活用した授業実践に関わる校内研修を月に1回以上行うなど、学校全体で、生徒が1人1台端末を使用するような授業の展開に向けた取り組みができていく。

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 ( ) は昨年度	備考
2 総合的な探究の時間を中心とした地域学習の実践により、生徒の自己肯定感を高め、充実した学校生活を送れるよう支援し、社会人として必要な人間力の育成を図る。	① 日々の声掛け等の、粘り強く地道な指導を続け、生徒の基本的な生活習慣を確立する。	欠席・遅刻をしないように努めている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満  食事を通して身体的な健康維持ができていると回答した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	B 76.5%  (85.7%)  C 58.8%  (47.6%)	1ヶ月ごとの皆勤者表彰を行うなど、欠席・遅刻をせず、時間を守ることの大切さを全教職員で指導している。今後も日々の声かけを積極的に行い、生徒の基本的な生活習慣確立に向けて取り組んでいく。  規則正しい食生活をさせていると答えた保護者は昨年の53.3%から81.3%と増えたが、生徒の意識は6割程度である。「ほっかほかタイム」等の食育を通して、身体的な健康維持のために、食事の大切さを日々伝えていく必要がある。
	② いじめを含め問題を抱える生徒の早期発見と支援を行い、問題行動の未然防止を図る。	支援連絡会やいじめ対策委員会を通して、生徒の現状を理解し、支援ができていると評価する教員が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	A 100%  (100%)	先生が親切に相談に応じてくれると答える生徒は88.2%、保護者は100%である。今後も常に個々の生徒の現状理解に努め、教職員間で情報共有を行っていく。全ての生徒が安全安心な学校生活を送れるように取り組んでいく。
	③ 総合的な探究の時間等で生徒の興味・関心に応じた分野で地域学習を実践する。	充実した取り組みができたと回答した生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 94.1%  (80.9%)	生徒が希望した5グループ（木工おもちゃ、芸術・デザイン、食文化、音楽、観光・くらし）に分かれて、生徒主体の探究活動が実施出来ている。今後は効果的な地域学習も念頭に置きながら探究活動を進めていく。
	④ 地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動を実践する。	地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動に参加した生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	D 23.6%  (4.8%)	今年度も「大聖寺町中クリーン作戦」（町内清掃）を実施出来た。今後、学校行事や総合的な探究の時間を通して、高校生からの地域貢献の重要性について伝えていく必要がある。

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 ( ) は昨年度	備考	
3 生徒の能力や特性に応じた個別の支援計画を作成、共有、活用することで多様な生徒の進路実現を目指す。	① 生徒が、自己の能力・適性を理解し、学習意欲の向上を図れるように、資格取得に向けた指導を行う。	検定・資格取得・コンクール出展に取り組んだ生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	後期  実施予定	/	
	② 卒業までを見通した指導計画に基づき、生徒各人の能力・適性に応じた支援・指導を行う。	自己の進路に関する関心が高まったと回答した生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B 88.3%  (71.4%)		定通企業ガイダンス、「先輩と語る会」や市内企業見学の実施など進路セミナーを通して、生徒は自己の進路に関する関心が高まった。日頃の授業や面談等において、具体的な進路選択を目指していく。
	③ ハローワークや地域の企業等と連携して、生徒の就業の支援・指導を行う。	就業率（アルバイトを含む）が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	D 29.4%  (42.8%)		調査時の就業率は昨年の42.8%からさらに減って29.4%と3割になった。ハローワークや地域の企業等と連携を深め、生徒の自己実現力を高めるためにも、就業率を上げていく必要がある。
4 校務分掌の適切な割り振りや業務の平準化を進め、教材研究や生徒理解の充実を図る。	① 職員間の横の連携を強め、積極的に協働し、生徒理解に取り組む時間を確保する。	個々の生徒について、より理解が深まったと感じる教員が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	後期  実施予定	/	